

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第17回）議事録

1. 日時：平成31年3月20日（水）10：00～11：49
2. 場所：ホテルセントヒル長崎3階「紫陽花の間」
3. 出席者：都市再生委員会委員8名
菊森淳文委員、寺岡誠三委員、林一馬委員、平松喜一郎委員、本田時夫委員、山口純哉委員、山口雅二委員、渡邊貴史委員
（欠席4名：石原彰人委員、伊藤滋委員、外井哲志委員、平野啓子委員）
長崎県 企画振興部・土木部参事監（村上真祥）、都市政策課（植村公彦、船越一成、森永聡子）
長崎市 まちづくり部政策監（向井逸平）、都市計画課（谷口仲二、濱崎高行、柴原浩一、春野良太）

4. 内容：

[開会] ○県都市政策課（植村課長）

- ・第17回「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会を開会いたします。
都市再生委員会の事務局は県と長崎市が共同で務めており、県側においては、昨年度まで企画振興部のまちづくり推進室が所管していましたが組織改正により、所管が土木部の都市政策課に移りましたので、そのまま事務局を引き継いでおりますことをご報告申し上げます。

[主催者挨拶] ○県企画振興部・土木部（村上参事監）

- ・長崎市中央部・臨海地域につきましては、平成20年に、国土交通大臣から「都市・居住環境整備重点地域」への指定を受け、委員の皆様のご協力を賜りながら、長崎市と県とで共同いたしまして平成21年度末に基本計画を策定しました。
その後、特に重点的に整備が必要な4つのエリア、「松が枝周辺」、「長崎駅周辺」、「まちなか」、「中央」のエリアについて整備計画を策定してまいったところでございます。
- ・整備計画につきましては、整備の期間を短期、中期、長期、そして継続の4つの区分を設けまして目標年次を定めて、まちの魅力の強化と賑わいの創出につながるよう、施策の具体化に向けて取り組みを続けてまいりました。このたび、平成29年度末に短期の整備期間の目標年次に到達をしたところでございます。
- ・本日は、これら4つの重点エリアにおける短期整備プログラムの進捗状況のご報告を申し上げてのご議論をいただきたいと思います。また、今後の都市再生施策の取組方針について、さまざまな動きが出てきているところでございますので、ご説明を申し上げて、ご議論を賜りたいと考えております。
- ・委員の皆様におかれましては、都市再生全体の観点から忌憚のないご意見を頂戴いたしますことをお願いいたします。

○県都市政策課（植村課長）

—資料の確認—

—会議の公開—

附属機関等の設置及び運営に関する要綱に基づき、会議は公開で行い、議事録が後日公表することとする。

—新任委員の紹介—

—委員長を選出—

委員長は菊森委員に決定

[議事]

議題1 「長崎市中央部・臨海地域」の都市再生における重点エリア整備計画（短期プログラム）進捗状況報告

○長崎市都市計画課（濱崎課長補佐）

—資料1-1～2-2について説明—

○林委員

- ・達成状況で「一部達成」や「未達成」は、大半が交通関係ということだろうと思います。今後「達成」になるのが理想ですが、かなり難しい問題が含まれていて、どうするかが課題になっていくと思います。
- ・この委員会では、警察関係との折衝があまり具体的でないようですが、人口が減りつつあり、そして開発が進んできて、沢山の方が来ていただいている中、将来に向かって、10年先になっても解決できていないという問題がどうも予見されていると。
- ・何かもう一つ大きな設定、目標として、例えば中心市街地で公共交通以外を排除するような大きな施策をしていかないと、なかなか解決できない。
解決に向けた取り組みとして何が考えられるか、県・市で何かお考えがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

○長崎市まちづくり部（向井政策監）

- ・例えば長崎市だと寺町付近の通過交通を排除できないかと、色々検討をしており、社会実験という形でもできないかと試みています。
現在、道路の歩道側に幅広の着色をして歩行空間を確保し、車が少し通りにくい環境をつくるようなことや、先ほどご報告した袋橋、石橋の保全という目的も併せ、車を通さないようにして、ある程度の制限をかけるということをやっています。
- ・本格的に交通の抑制をすることについて、例えばロードプライシングが導入できないか国内でも実証を検討されているが、日々の生活に密着したところであるため、実現は難しいというように思っております。

- ・一方で、先ほどの寺町とか中島川境界で見ますと、地元にお住いの方が通るのはやむなしとするにしても、通過交通がなかなか負担になっているというところがあります。そういったところで、かなり長期的な、過去にさかのぼる取り組みですけど、県・市協力しながら放射環状型の道路網の形成を進めてきておりました。
- ・ただし、今回、陸橋の撤去、平面横断というところで協議をしたものの実現できなかった背景には、やはり交通量が多いことにあります。最終的には交通量を減らしていけないといけないという時に、制限をかけるというのは難しいので、放射環状型道路網のネットワークをさらに充実させることはできないかというようなどころがあります。
- ・今、道路ネットワークの形成の中でできていない南部のほうに回る環状道路とか、長崎から浦上川線を延伸して滑石、時津と抜ける道路とか、そういったところの整備に一部取り掛かっていただいているところもありますし、今後の計画としてまだ着手されていない部分は、県・市協力して進めていくべきものというふうに考えています。
- ・そういったところで制限規制という形での実現化は難しいと思いますので、道路ネットワークをきちんと整備していくという取り組みを引き続き続けていきたいと思います。

○県都市政策課（植村課長）

- ・県の意見を述べさせていただきますけれども、今、向井政策監がお答えしたように、強制的に自家用車から公共交通機関への転換を進めていくというのは、なかなか難しい面があるということで、私どもとしては、公共交通になるべく少しずつシフトしていくように、公共交通機関の利便性を高めるような施策を都市再生の中でもやっていってはどうかというようなことは盛り込んでおります。例えば路面電車の軌道を南部の方面に延伸して、長崎駅方面と直通で運行できるようなことを中・長期の施策としてやりましょうとか、そういうふうなことは盛り込んでおります。
- ・先ほど、市から長崎駅前の電停のバリアフリー化が進んでいないと報告しましたが、駅前の通過交通量が非常に多いために、それが実現困難という状況になっておりますので、次の取組みとして駅前の交通量を減らすことができないかと今、県・市で連携して検討に入っているところでございます。
- ・例えば、国道と並行して浦上川沿いに都市計画道路、大きなものがありますけれども、こちらのほうはまだ余裕がありますので、そちらに少しでも多くの車を転換させて駅前の交通負荷を減らすと。そうすれば、もしかすると平面での横断が可能になってくるかもしれない。そういったことも、これから検討していきたいと考えているところです。

○林委員

- ・ぜひよろしく申し上げます。その時に、中心部における交通の体系といいますか、目指すべき方向をもう少し明確にされたほうがよいかと。
と申しますのは、現象面で、今おっしゃった駅前の交通量をどこでどう制御していくかというときに出てくる問題。そして今、既になっております。国道34号線が、蛍茶屋付近で矢の平方面に行く車の列が左右に伸びている。ものすごく混雑し始めまして、300

メートルぐらい、ずっと右折車専用路線のような感じになってしまっていると。

今度、4車線化がずっと東長崎までいくと、それは便利ですけど、入ってくる量が無制限というわけではないにしても、かなり多めに入らせると。本当ですと、入ってくるのが難しいといえますか、制御された形で市内の滞留の交通量をむしろ抑えていく方向の方が解決しやすいのですけれども。

- ・都心近くまではかなりスムーズに来るけど、肝心の都心に入ってからが余計に大変になってくる。既に発表されておりますが、馬町交差点でも右折車が最近は非常に多いです。それで専用レーンにしようということになっています。

そういうことが後手、後手になってくる感じですので、ともかくは通過交通をはじめ、中央部・臨海地域における総交通量、特にマイカーだとか物流的な車の量を何とかしてうまく制御していく方法をぜひお願いしたいと思います。要望です。

○菊森委員長

- ・交通の問題というのは、5番の駅前電停のバリアフリー化の問題のみならず、幾つかの混雑点といえますか、そういうことがもともと検討されてきているところではあると思いますので、ぜひ引き続き、具体的にどうされるのかというのをどこかの時点でお示しいただいて、スムーズな駅前開発と、利用が進むようにお考えいただければというふうに思います。

○山口(純)委員

- ・ご質問ですが、大きな目標が3つ掲げてあって、1番目の都市の魅力であるとか、3番目の国際ゲートウェイ機能の再構築というところは、恐らく計るとするのは難しいところだと思いますが、目標2の回遊性の充実というところは、一定計れる目標ではないかなというふうに思っています。
- ・特に今、長崎市内の開発の状況を見てみますと、長崎駅周辺エリアからさらに幸町のほうに向かって伸びるところにマンションが集中立地をし始めていたり、大きな開発の案件があるということで、どちらかという引力が、そちらのほうに吸引されるような形になっているといった時に、本当に駅周辺エリアからまちなかエリアに人が流れているのかとか、松が枝からまちなかに流れているのかというようなところに関しては、先ほどご説明いただいた事業によって本当に改善が見込めるのかどうかを適宜チェックをしながらやっていかないとイケないのではないかなというような気がしています。
- ・もちろん、これを全部計るとなると大変ですけど、質的な状況でもいいですし、量的なものでも結構なのですが、その辺のそういう兆しが、まだ短期ですから見えないかもしれませんが、見えてきているのか、もしくはそれをどういうふうにチェックして改善につなげていくのかというところで何か策があれば教えていただければと思います。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・計測できる部分では、商工会議所さんに、長崎市内中心部各所の歩行者交通量を年に一

度、平日と休日に計測していただいて、その動きがどうなっているのかというのを我々使わせていただいているというところが正直なところですよ。

- ・例えばまちなかの部分については、基本的には右肩上がり傾向になってきているというふうに認識をしております。ただし、ご指摘いただいた、駅からどんな感じで人が流れているのかというエリア間の動きを正直つかみきれないという現状でございます。
- ・今後、駅を整備する中でも一つの目指すところとしては、陸の玄関口から入っていただいた方をまちなかにつなげていくというのを目標にしておりますので、その辺の把握の方法とかを少し研究する必要があるとは思っておりますが、現時点では把握できていないというのが現状です。

○山口(純)委員

- ・ぜひ、その辺を。多分、全てを定量的に測ろうとすると大変な作業です。ただ、GPSとかを使えるようになってきて、居住者の方、観光客の方、ある程度移動した経路がわかるということがあるので、そういうことは進めていただきたいと思います。
- ・場合によっては、例えば特定のマンションでも結構ですし、そういったところの方々の生活圏を少しチェックしてみるということができれば、そういう形の回遊性が生まれてきている、生まれてきていないぐらいは、もしかしたら見えるかもしれません。
- ・せっかく事業を進めていますので、これがそういうことに少しでも効いている、そっちの方向に向かっているというようなところなども示されたらと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

○菊森委員長

- ・山口先生のご指摘の、特に駅前とまちなかとの間などの回遊性の問題は、非常に大きな課題だと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

○平松委員

- ・山口先生の質問に関連して。もともと回遊性というのは何を回遊させるか、交流人口を回遊させるというのが、定住人口の方もいらっしゃると思いますが、交流人口、来られた方をどう回遊させるかということなので、もっと根っこのほうですね。
- ・もともと駅の玄関口にどれぐらいの交流人口が来ることを予測されるのか。海の玄関口、松が枝の再整備もされるご計画があるようですが、今、現実に松が枝には相当な人が来ているわけですが、それをどう回遊させるとかですね。
- ・それから、僕らは2016年に提言書を出して、そこに少し書いているのですが、空港から来た人が、長崎市内に入ってきた時にどこに着地して、そこからどう回遊していくのか。僕らは、ある意味では強制回遊動線があってもいいのではないかと提言をしたこともあるのですが、もともとどれぐらいの人数を想定して、それがどれぐらい、どう回遊していくのかというモデルケースを。そのとおりに行くとはいけませんけれど、ある想定があってもいいのではないかと思うし、交通機関を、どれぐらいの人が来るからど

れぐらいのネットワークが必要だとか、やっぱりモデルが必要だと思うんです。

- ・今、現実的に700万人を確かに達成できたというお話ですけど、我々は、長崎の地域経済を支えるためには、最低でも1,000万人ぐらいを目標にしていけないといけないというお話を以前したことがあります。
- ・もともと交流人口拡大が最終的なテーマでしょうから、今のは短期でしょうから、今後、中期とか長期になった時に交流人口をどれぐらい想定するということが必要になってくるし、その時に回遊性だ、交通機関だという流れになってこない。
- ・今、目先のここだけじゃないはずですし、それじゃあまずいし、今後、1,000万人なり何なりにもっていかなければ、この計画そのものが長崎の地域経済を支えることになっていかないと僕は思います。そこを見据えて、今の回遊性の問題、交通の問題を含めて僕はやっぱり考えていくし、後でご説明があるのか、中・長期をどう考えていく中で短期はどうかと、こういう話だろうと思うし。
- ・先程の市からのご説明も、都市の魅力だとか、一つひとつ、結果として今やっていらっしゃることについて未達成だ、一部達成だ、達成だという話ですけれども、これも中・長期で都市の魅力と回遊性を重視すると、もともとの整備方針に1から7、8までありますが、これとこれがどうリンクしていくのか、そのあたりの体系的なご説明がないとなかなか、短期の結果だけをお聞きしても、「ああ、そうか」というふうにはいかないと思いますので、中・長期を含めてご説明がきちっとあったほうが。その中で短期の位置づけがこうだったというお話でないと、理解があまり十分できないなと思っています。

○菊森委員長

- ・後で中・長期のご説明があろうかと思いますが、今、平松委員から問題提起をされました。果たして今後の交通量としてどれぐらい増えていくのかと、特に駅前地域だろうと思うのですが、その辺についても含めてご回答いただければと思います。

○県都市政策課（植村課長）

- ・どこからどれぐらいの人が長崎のどこに入ってくるのか、それをどこに、どういう手段で、どれぐらいの量で回遊していただくのかということについては、正直申しまして、これまでのところ具体的な量的なものは想定をしておりませんでした。ただ単に、年間の観光客数700万人を目標というところのみで、それ以上のことは検討していなかったのが実態でございます。
- ・ただ長崎駅の開発整備がどんどん進んできて、新幹線の開業が迫ってきている状況の中で、そこにやって来た人をどういう交通手段でどういうふうに回遊させるのかをちょっと真剣に検討しないといけないなというふうに思いまして、県の方で先般、長崎駅の利用者に対するアンケート調査を行いました。どこに行こうとしているか、現状としてどういう交通手段を選択しているのか、その理由は何か、条件が変わったら利用交通手段を変える可能性があるかというようなアンケート調査をやりまして、それをもとに、新幹線開業時の望ましい交通結節のあり方について検討を今、進めております。

- ・同様なことを、例えば松が枝とかでもやらないといけないだろうと考えておりますが、まだ着手したばかりで、なかなかその内容をお示しできる状況にないという感じでございまして、これから検討を急いで、市の方とも情報を共有しながら、今後の展開を検討していきたいと考えております。

○平松委員

- ・ 2年ぐらい前かな、九大の外井先生よりご質問があった。交通センターをこの駅の中に、区画整理事業の中でやられますよね。交通センターの規模を設定するに当たって、どれぐらいの人を想定して、今の交通センターとどれぐらい規模が違うのだというお話があった時、僕も関連質問で、それを決めるには、交通センターもさることながら、新幹線でどれぐらい来るのか、増える想定をどれぐらいとされているのかと質問をした。その時は企画振興部でしたから、新幹線も一緒におやりになっていたのです、新幹線でどれぐらい増えると、長崎駅という拠点に関しては、西九州ルートでこれぐらい増えるとB/Cは計算されているけれども、長崎駅に限って言えば、どれぐらい増えるという数字は持ち合わせがないという話があった。
- ・その後、そのあたりの進捗は目の前に、本当に3年後に新幹線開業が迫ってきたので、急いで検討しないと。どれぐらい想定してやるかということが一番大事なところになってくるので、急いで何らかの方法で検討していかないと。それを想定の上で、いろんな都市計画なり何なりに反映させていかないとまずいなと思っているので、一番急ぐところ。着手されたというお話ですから、急いでやっていただきたいと思うし、この委員会でも確かにそういう意見が出たはずですから、ぜひ、ご検討を引き続き、早急にお願いしたいと思います。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・我々は土地区画整理事業、駅前再整備をやっております。基本的には新たな駅を利用される人数がベースにあり、そのあとに駅の利用者に応じたタクシープールの台数。そこに入るのはタクシーやバスと一般のお客さんの送迎用の車両スペースなどで構成されていますけど、それぞれ現況よりもかなり改善されてキャパ的には上がっています。
- ・それをどういった数字でいかにして上げたかというのは、一つは、駅の規模に応じて必要な台数の指針みたいなものがありまして、それに応じてつくるという部分ですが、それ以外にも事業者さん、例えばタクシー協会さんやバス事業者などに、お客さんがある程度増えると、それに対して皆さんは需要はどれ位とお考えですかというような聞き取りをして、調整をしながら進めてきている状況です。
- ・いずれにしても、例えば必要台数をきっちりとするのではなくて、スペース的に余裕がある限りは、受けとしては広く持っておきたいと思っていますので、できる限りスペースを見つけて、バスの寄りつきができるようなバスベイを切り込んだりといった対策で、将来の需要の増に向けて余裕をもった施設整備をベースに考えているという状況です。

○平松委員

- ・僕ら経済界としては「これぐらいにしたい」など、ある意思が働いていいと思っているそうでないと、長崎は衰退する一方だと僕は思っています。これぐらいにしなければ長崎は生き返らないと、いうことで僕らは1,000万人と言っているのですが、それでも少し少ないかと思う。1,000万人で長崎が本当に生き返るかどうかは疑問なのですが、とりあえず。
- ・沖縄はよくそういうことをやっている。沖縄の計画のことも話したことがあります、沖縄はそういう意思が結構働くのですよね。今は1,200万人まで上方修正しました。
- ・ある意思を持って、これぐらいの地域にしたいという意思を、行政も我々も、それをもって、それがためにこうするというのが無いと、ちょっと元気がない長崎になってしまうと思っていますので、その辺、よろしく願いいたします。

○菊森委員長

- ・新幹線開業時に駅のお客さんの数がどれぐらい増えたかというのは、例えば北陸新幹線開業時の金沢駅の例を私が金沢市の観光協会にヒアリングして調べたところ、一時的にせよ2.5倍に膨れ上がった。今は落ち着いていますけれども、多少は増えている、それでも大変なことだった。駅から香林坊までのシャトルバスを何分間隔で走らせるのかというような話も出てくるということでございますので、ある想定の数値というのは（ある程度）つくった上で、何らかの交通手段というものを、公共、自家用車も含めて検討されるというのも一つの方法かなと思います。

○山口(雅)委員

- ・現実としまして、直近で今年のランタンフェスティバルの2月の3連休の時、諫早から渋滞で、駅周辺、もう長崎に入って来られないということが現実にあったわけです。
- ・これから、特に働き方改革を含めた中で有給休暇の取り方も変わってくると思いますし、今年の5月の連休は開港記念の行事があり、みなと祭りのような要素の行事があるということで、その辺の動線を含めた中で、ちょっと怖い感じがするのですよね、10連休になりますので本当に今の形で消化できるのか。その辺を含めた中で、特に5月の10連休をしっかりと確認や調査をされたほうがいいのではないかと。ランタンフェスティバルの3日間だけで、あそこまでの渋滞が起きたという現実がございますので、その辺をしっかりと見ていただきたいと思います。
- ・また、この間、長崎市の都市審議会に出席させていただいた中で、駅周辺の元船の海側の土地の容積率のアップをされました。そして、中島川周辺の容積率も少しアップされて、今500%になっているのが600%になりました。ということは、居住空間になるのか、ビジネス空間になるのか、その辺は今からだと思いますが、まち、特に駅周辺に人口が増えてくると思います。その辺も現実の問題として調査をしっかりしていかないと。
- ・こちらはそういうような形で容積をアップして、どうぞいろんな形で来てほしいと、定住人口も増やしたいというふうな部分もある。しかし現状からすると、駅周辺の整備事

業もどういふふうな形か、まだはっきりとわかっていないのですよね。

駅舎の建築が今から始まると言われ、5月、6月から始まると思いますが、その中で一番大事なのが、駅周辺でどれだけ駐車スペース含めて確保できるのかと。やはり駅が中心になってくるとは思うので、その辺も総合的に考えていただかないと。その辺が少し、総合的な部分がないのかというような感じがするのですが、いかがでしょうか。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・長崎は過去にゴールデンウィークにもものすごく混雑をしたことがあって、交通渋滞については駐車場案内をしていました。車で来ないでくださいということはなかなか難しいので、駐車場案内をして速やかに入っていただくために駐車場のマップをつくって配布する取り組みをしておりました。直近、どういった取り組みになっているのかというのを私は把握していないのですが、ご指摘のように今回のゴールデンウィークについては少し配慮が必要かなというふうに改めて思いました。
- ・あと今回、容積率を少し見直ししたりとか、駅の区画整理区域内には、JRさんも土地をお持ちですし、それ以外にも長崎市が区画整理事業の事業費に充てるために売却をする、保留地という土地が新たに区画整理の中で生まれてきて、それが基本的には活用がされていくこととなります。そこに何ができるか、将来の持ち主が何に使うかということころまでは今の時点ではわからない部分はありますけれど、今回の容積率の見直しもそうですが、周辺の道路環境、道路幅員がある程度整っていて、高度利用ができるところについては上げていこうということで、ベースとしては基本的に駅についても、区画を整理して道路環境を良くしてというところがございます。そういったものを見極めながら、容積率についてもコントロールをされています。
- ・一方で、平常時はそれで良いかもしれませんが、特別の日はどう対処するのか、課題としては確かにありますので、平常時については、前段の話にもつながりますけれども、少し長期になるかもしれませんが、道路ネットワークをきちんと組んでいくというところと、ゴールデンウィークなどの一つの期間にピークを迎える時は、駐車場の案内などのソフト施策を組み合わせながら対応していく必要があると思っています。

議題2 今後の取り組みについて

○長崎市都市計画課（濱崎課長補佐）、県都市政策課（船越課長補佐）

—資料3-1～4-1について説明—

○寺岡委員

- ・ご質問が2点ございます。1点目は、先日テレビで高田社長が、幸町工場跡地でのスタジアム建設を、人気番組の中でご発言をされていたのですが、資料3-1を見ると、長崎駅周辺エリアの中に幸町工場跡地の利用に関しては入っていないのです。恐らく、ジャパネットさんとの間で、市や県に話し合いや折衝を行っているのかもしれませんが。

- ・今は長崎駅周辺エリアには含まれていないのですが、これを含めて長崎駅と一体としての何かしら中・長期的な再開発の考え、もちろんその間に住居であったり企業さんがいらっしゃるかもしれませんが、それを含めた形での何らかの再開発のビジョンやプランはあるのでしょうか。
- ・もう1点は、松が枝の2バース化の件でございます。申込みの6割しか船を入れることはできないというお話ですけど、残りのお断りした4割の船がどちらへ行かれているのかは把握されているのか、お聞かせください。

○市都市計画課（濱崎課長補佐）

- ・まず1点目、幸町のほうですが、今現在、事業者と県・市で検討を進めています。計画のベースとなる都市計画、それから交通をどうするのかというのが今、メインの議題になっております。
- ・この地域につきましては、都市計画のマスタープランにおきまして、土地利用の転換を図っていく、高度利用を図っていく地区として位置づけをきちんとしておりますので、その方針に沿って、事業者の計画を見ながら、それにふさわしいものであるか、周辺の交通環境に影響を与えないか、または影響を極力抑えるものか等を判断しながら、都市計画的にも考えていく流れになっております。
- ・サッカーの試合の開催時などはかなりの人数の方が来られると予想しておりまして、来場者をどのように流していくのか、そのような交通動線について今、協議を進めております。周辺環境については道路の渋滞、特に車の交差点での左折についてはかなり影響を与えるだろうと予測できますので、ジャパネットさんの検討に並行する形で検討を進めている状況でございます。

○県都市政策課（植村課長）

- ・都市再生の計画の中に、今は、幸町工場跡地は含まれていないのですが、ご指摘のとおり長崎駅周辺エリアに隣接をしており、長崎駅との間で多くの人が行き来が出てくるのは間違いないと思っています。
- ・まだ決定事項ではありませんが、今、県と市との間で、来年度以降、長崎駅周辺エリアを拡大して幸町の再開発事業を取り込むような形で、必要な施策の検討を行い、計画の改定をやってはどうかということを協議中でございます。
松が枝については、担当者に代わります。

○県都市政策課（船越課長補佐）

- ・松が枝のクルーズのお話ですが、現在、残りの4割がどちらへ行ったのかというデータは持ち合わせておりません。申し訳ありません。
- ・クルーズ自体が、アジアのほうから九州に来られるものが多いという現状があるのが一つ。それから、九州各地のクルーズの受け入れ、福岡やほかの県も含めて増えてきているという状況がございますので、九州が一つの大きな受け入れとなっているのかなと、

それを逃さないようにしていくのが、今後、必要な取り組みなのかなと思っております。

○市都市計画課（濱崎課長補佐）

- ・幸町の計画については、この場所だけで考えているわけではなく、駅周辺を含めて全体のまちづくりとしてどうしていくのかという観点が必要になってくると思っています。
- ・それと、これを市内に波及させることが重要だと考えております。特に浜町とかの中心部にどう波及させていくのか、また、長崎市だけではなく県全体にどう経済波及効果をつなげていくのかという観点も非常に大事だと思っています。そのようなことも含めて、今後、検討を進めていきたいと考えております。

○寺岡委員

- ・駅も開発されて、幸町工場跡地も開発されたら、幸町工場跡地にもあって、駅にもあるではなくて、こっちにはあるけど、こっちにはないよ、ぐらいのですね。
プラス、サッカーの試合が終わった後、夜にリスタートですね、その方々にまちの中心部にどうやって行っていただけるのかという回遊の施策もしっかり考えていただければと思っています。
- ・2 バース化を聞いたのは、最近、佐世保に仕事で行くと、佐世保によく船が入っているなど感じていたものですから、今回、長崎市中心部での開発だったので、やはり佐世保に行っているのではないかなというふうに思ったものですから。せっかく来たいという要望があるなら、しっかり来ていただいて、その客を逃がさないようなシステムづくりをしていただければと思っています。

○渡辺委員

- ・都市の持続可能性という点から、2点ほど質問させていただきたいと思います。
まず第1は、市街地再開発事業でございます。市街地再開発事業に関しましては、保留床の処分がうまくいかず、破綻する市街地再開発事業がかつて多々あったわけです。そのような中で、これから新たに取組みまれていく新大工町と浜町地区の再開発事業は、事業の採算性という点において、果たしてこれが妥当かどうか検証はなされているのかという点でございます。
- ・もう1点は、交流人口の拡大に向けて種々の開発をすることは結構ではございますが、一方で、朽ちるインフラという言葉があるように、長崎市全体を見た場合に、いろんなところで更新する必要があるインフラが多々あります。そうした更新する必要があるインフラとのバランスを考えた場合に、今行われている開発の事業の規模は果たして適正なのかという都市全体のマネジメントから見た上での開発規模の妥当性についてはどのようにお考えになっているのかという点でございます。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・まず1点目の再開発事業の採算制という部分です。過去に再開発で破綻した事例があっ

て、行政がその中に組み込まれたような再開発については破綻したケースが多かったかなという印象です。

- ・今回の新大工の再開発は、行政からも補助をお出ししますが、基本的に民間ベースでやられるという内容になっており、再開発の取り組みの中でも、事業者さんとしても確実性を高めたいということで、事業実施の初期段階で、将来的な保留床の買受けを約束していただけるような条件でメンバーとして入っていただく等で、最初のうちにリスクをできるだけ事業者としては第三者にきちんと引き取ってもらって、そこで事業のスタートを切るという取り組みをやられているので、かなり手堅い事業になっていると思っております。
- ・2点目の都市の新たな投資という部分と今後のインフラ、将来迎えるであろう、ある意味将来の負債といったところのバランスですが、正直、私がそのことについて語れるようなものを持っていないのですが、長崎市では、例えば橋梁であったら、いかに長寿命化していくかということをテーマの一つに持ってございまして、まずは今ある施設を長くしっかり使っていく、なおかつ全体のライフサイクルコストを抑えていくという考えです。
- ・一方で、どうしても投資すべき必要な社会資本というのは、いろいろな今の長崎の課題を解決するために生まれくるものなので、それについてはしっかり投資をしていくという考えです。ただし、投資するに当たってはライフサイクルコストをしっかり考えながら投資をしていくスタンスで取り組んでおります。それが全体として、会計上、将来の負債が維持管理とか更新とかというものを幾ら評価しているのかというところまでは、正直私は把握しておりませんし、多分、市として全体でそれを把握しているところはないかなと思っております。

○県企画振興部・土木部（村上参事監）

- ・再開発事業の採算について少し補足を。再開発事業が破綻をするというのは、恐らく、竣工してしばらくたってから、商業床の空き床が目立ってきて採算が合わなくなり、破綻に至るというケースが多いのではないかと思います。
- ・この頃、商業主体の再開発はあまり多くありませんで、今回の新大工町につきましては2棟ございまして、背が高いほうは、下3層が商業で、それ以上は住宅で分譲してしまうという構成になっております。小さいほうの建物は立体駐車場とオフィスの組み合わせとなっております、いずれも入居者は決まっているということです。
- ・危ないのは、入居者を決めずに商業床を多く設定してしまっていて、無理に入ってもらって賃料が払えなくなるというケースが破綻につながるケースが多いので、今回の構成であれば、当面大丈夫だろうなど。下3層のところの商業をきちっと回すことが必要かなと思います。もし商業がもたなくなった場合に、先ほどの行政の機能を入れたりすることでしばらくしのぐのですが、それでもなかなか続かないということで破綻に至ってしまうというケースが多いかなと思います。
- ・これから着手をしていくであろう浜町については、そのあたりもよく考慮して進められ

ていると理解をしておりますので、県・市とも、うまくいくようにウォッチをしていこうかなと、また、できる支援はしていきたいと考えているところでございます。

○山口(純)委員

- ・今の渡辺先生の話にも通じるところがあるのですが。今回は長崎市中央部・臨海地域の都市再生委員会ですが、ここが再生すると周辺がすたれるということは困りますので、ぜひその辺を、総合性みたいなところを考えていただきたいなど。
- ・中心部のマンション供給は、これからすごい勢いで、この数年は続くというふうに言われており、中心部で恐らく4,000万円強、4,000万円を超えるようなマンションの供給が始まるんだと思いますけど、そこに移り住める方はそれなりの所得の層の方しかいないわけで、そうすると、斜面にはお金のない方が残されていくということが出てくると思います。そういう方たちをどうケアするのかという新たな問題が出てきたり。
- ・あとは、先ほどありました、新大工と浜町で再開発をやられる時に、少し離れた幸町でも何百戸というマンション供給が本当に行われるのかどうかということですね。その時に、引っ張り合いになってチキンゲームになっちゃって、最後にババを引いた人が負けですよみたいなマンション供給の競争にならないように、そこは徹底的に長崎市、長崎県で規制を入れてほしいと思っています。
- ・容積率の緩和の話も出ましたけど、それによって駅周辺のほうがマンション供給をする時に有利な状況になると、周辺部の旧来の市街地での再生がなかなか難しくなると思いますので、住宅と商業と交通と、あらゆるもので全体が縮んでいく中で、何かつくとどこかが引っ込むというのはもう間違いありませんので、そういうところもぜひ、行政のほうで注意してコントロールをしていただければということをお願いして発言させていただきました。

○菊森委員長

- ・一種の、住宅、商業、交通といったバランスのとれた都市形成を、一定の規制をかけながら、そういったランドデザインを描いていくということをご指摘いただいていると思いますが、この点については、市のほうで何かございますか。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・ご指摘のように、マンションの供給は、現状は活発で、それは需要に支えられているというふうに思います。
一方でマンションが、特に中心部については高価な値段になってきているとも思いました、誰でも買えるようなお値段ではない物件も結構多いかなと思っています。
- ・中心部に人が集まり過ぎて周辺部がすたれてしまうということはあってはならないと思っております、例えば駅の再開発についても、再開発した陸の玄関口から周辺に賑わいをいかにつなげるかというのは、やっぱり常にバランスを考えておかなければならないことだという認識はしておりますが、一方で、長崎市で立地適正化計画というのを

くりまして、ある程度メリハリの効いた都市集約で持続可能性を高めていくという方針もございます。

- ・居住については、斜面地の中で、あまり住むに適さない危険性をはらんでいるようなエリアについては居住誘導区域には入れずに、もっと安全で安心できるようなところに、長い時間をかけてですけれども、都市を集約していこうと考えています。商業とか、少し高度化された機能についても、そういった機能を誘導するようなエリアを中心部に置いて、長期的にそこにシフトしていくことで持続可能性を高めようというところなんです。
- ・周辺の方にもきちんとケアをしていくべきというご意見はもっともだというふうに考えておりますが、今、具体的にこういった施策を打つというところまではまだ至っておりません。

○山口(純)委員

- ・ぜひ、降りてこられる方の誘導施策も、しっかりとっていただきたいと思います。

○本田委員

- ・今後の取り組みという点で、要望も含めて申し上げたいと思います。

私は現時点で、これまでの5年間とこれから先5年間というのは、今、ちょうどその境目のところ、転換期の中のまたその転換期みたいな形で捉えているのですけれども。

これまでは、長崎においてのマイナスの要因とか、あるいは人口減少とか高齢化とかということがベースになった形での、結果だけ言えば交流人口の促進とかインバウンドの増強というようなことが非常に大きくクローズアップされて、結果として国際観光船来航隻数、あるいは外国人観光客の増加というものは非常にクローズアップされて言われてまいりました。恐らく、そういうことに対する対策は絶対に必要だったと思いますし、これからもやっていかなければいけないというのはそのとおりだと思います。

- ・ただ、これから先、例えば国際観光船の問題でいうと、中国のエージェントが、もうそんなに安いツアーは組めないと、もう組まないと、もうちょっとアッパーな方々を中心にやりたいとかという動きがもう確実に出てきている中で、これまでのような伸び方をするのかというのが懸念としてあると思います。それでも増えていくものは増えていくと思いますが、やはり今までとは違うインバウンド状況が確実にあらわれてくると。
- ・今でも体感としてありますのは、佐賀空港で降りて九州北部を回られるという方が非常に増えている。長崎にランタンフェスティバルにいられて、どこからいらっしゃいましたかと聞きますと、福岡から来ました、どこに着かれましたかと聞くと佐賀空港という方は結構多いです。そういう方々が増えている中で、引き続き国際観光船のインバウンドだけを頼りにするような政策は、ちょっと間違いではないかなというのが一つ。
- ・それから、そういった観光客の方々は、これからは物を買うよりも事を消費するとよく言われていますけど、確実にそういう方が上がっていらっしゃる。その方々の目指す、一つのもとにあるのは、やはり長崎に住む方々の生活感とか、生活の質の高さとか、あるいは食べておいしいものとか、いろんなものがあると思いますが、そういうことにシ

フトしていくのであろうと予想されます。

- そういう中で、これまでの都市再生に関するさまざまな施策と、その表し方に関して、一つ要望がありますのは、今後は、定住人口に対する施策と交流人口に対する施策と、またその複合型というような形での分け方を視点に据えて、こういうことは定住者の方にとってより効果なのですよとか、こういうことはインバウンド対策に絶対にやらなければいけないのですよとかと、そういう色分けで見られるようにしていく必要があるのではないかと。現状でのインバウンド対策の非常にアピールされた部分、ずっと住んでいる私たちはどうなるのというようなこととか、人口が減って高齢化が進んでどうなるのと、まさに大切な、住んでいらっしゃる方々の不安が増すような話というのはよく聞かれるところでございます。
- そういったところをもう一度、この表現上の問題も含めて、定住人口対策と交流人口対策というような、そういうふうにくくれるものばかりではないと思いますが、その併せたところでベストな施策とはどういうものなのかということもお考えになった上で進めていくというのは絶対に必要じゃないかなと。
- もう一つは、そういったものが進む中で、先ほど平松さんが、意思をもって進めるべきだというお話、私も非常に同感です。例えばコンパクトシティとか、都市のシュリンク化とかとよく言われますけれど、これが本当に意思をもってそういう形で進んでいるかどうかというのは、前々から私は非常に疑問でして。
- これは、都市政策とか、いろんな中での手法の問題があるので一概には言えないと思いますが、例えば市内の居住の方々を見ても、マンションができたので郊外から中心部に移り住んできたという方はたくさんいらっしゃいます。結果として、早期に開発された一戸建ての住宅街が過疎化していっていると、これはこれからも加速度的に進むのではないかと思います。
- そういったときに、何もせずに、と言ったら語弊がありますが、あそこは人口が減って中心部に移っていますよねというようなところを今後どうするかは、やはり行政を含めた、まさに意思をもってシュリンクしていくような行政施策ということに向けていかないと。ただ、エリアは拡散したままで拠点整備という名のもとにやっていくのは、これからの人口減少、高齢化の時代に対する行政施策としてはちょっとまずいのではないかと日ごろから思っています、そういう意味でも、今ここに並べられている進行中の施策は、全てそういうベースを置いたら、もう少し整理してわかりやすくなるのではないかと思います。
- そして、もう少し意思をもって、こういうことはこういう目標をもって、いつまでにやりましょうよということで官民一体となっていくような、そういう何か表し方といいですか、そのようなものが必要だと思ってご説明を聞いていたところでございますので、ぜひ、都市再生に関しては、そういった要素がもう少しはっきりと表れるような表現をしていただければということをお願いしたいと思います。

○県都市政策課（植村課長）

- ・今、幾つかご意見をいただいた中で、その中の一つに、交流人口だけではなく定住人口のことも見据えた施策に取り組んで、それをしっかりとPRすべきだというご意見があったと思います。
- ・もともと都市再生の取組というのが、国の制度でございます都市再生総合整備事業とか都市再生特別措置法とか、そういうところの活用を想定して取組を始めておりました、その制度のスキーム自体が、都市の国際競争力を高めて海外から人を呼べるような都市づくりをしましょうというようなことが前面に出されておりましたので、これまで長崎県、長崎市も、この都市再生の取組の中で、どちらかという与交流人口拡大を主眼に置いたような施策を盛り込んでアピールをしていたのですが、かといって住んでおられる方に対して何も目を向けなかったかという決してそういうことではなくて、住まわれている方にとってもますます住みやすくなるような、そういう意識は持ちながら施策を構築して計画をまとめてきたというところはございます。
- ・ただ、その部分をしっかりとPRをしてきていなかったというところはご指摘のとおりだと思いますので、今後の課題としてきちんと対応してまいりたいと思います。残りのご意見については、市まちづくり部にご回答いただきます。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・意思をもってというところで市のほうにきたのだと思いますが、そういった意味では、明確に都市のあるべき方向を示していくのが市のまちづくり、市の都市計画施策では重要だということで、都市計画の中では立地適正化計画ということで、長期的にはシュリンクしていこうという事と、シュリンクしていく時の考え方として、危険度の高いところに長期的には住むべきではないだろうから、もっと安全なこのエリアに居住を我々は誘導しますと、住むべき適地だと考えています、というような方向性は一定示してきているところです。
- ・ただそれを実施するに当たって、もう少し具体的に明確に、その行動につながっていくことを出すべきではないかという意見であるとも思いましたので、人の動きを制限するという部分に直接的な関与は難しいのですが、皆さんに意識づけをしていただくというところでは、市としても考え方の発信を頑張っけて続けていきたいと思ひます。

○林委員

- ・要望に近いのですが、短期が一応終わって中・長期に今後向かうときに、何らかの見直し、という点ですが、都市再生そのものとしては、なかなか取り上げにくのですが、特に長崎市として今後どのようなまちづくりの方向に、この都市再生事業を適合させていくか、うまく利用していくということで、一つだけお願いしたいのですけれども。
- ・中心部において交流人口を増やすということで、さまざまな施策をされてきて、今、具体化しつつある。これは非常に楽しみなところですが、一方で、ある意味で市街地内における容積率といいますか、人口も増え、建物の景観的な側面も、全体にかなり密

になり過ぎてきて、例えば新しいマンションに住まわれている方は、子どもさんたちを一体どこへ連れて行っているのかと。中心部において、空き地、広場、あるいは歩いている歩道部分が全く豊かになってきていない。そういう状況に対して、容積率に見合った空地进行意識的につくっていくのは大変大事なことです。ビジネスとしてそこにお住いとか、経済活動をするためにお住いというのはわかるのですが、子どもさん、次の世代を育ててく環境でないと、なかなか定住人口を望むのは難しいわけです。そういう方にとって、本当に長崎市のまちの中が楽しいところになっているか、あるいは快適な形になっているのかと。

- ・比較的、港側に近いところは、ここ数年いい空間ができてきておりますが、残念ながら「まちなか」と呼ばれるところに、そういう思い切った新しい公園ができたとかということがない。
- ・商店街にしても、買い物目的ではいいですけど、商店街を楽しむ空間が全く増えてこないですね。これは今までの経済というか、商行為そのものだけを狙ってきた、同じことが都市全体に蔓延しているような感じがしまして、本当の意味で長崎が持続可能といえますか、今後とも生き延びていくために、もう少しだけでも、これだけ平地が少ないところで申し上げるのはあれなんですけれども、それこそが実は、このまちの魅力をよりアップするのではないかと考えておりますので、ぜひ、ご検討のほどよろしくお願ひします。

○菊森委員長

- ・都市政策の観点も含めてご提案があったと思いますが、これに関して、今の市のお立場というか、コメントがあればお願ひしたいと思います。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・ぜひ検討しなさいというご意見で、まさしく今から検討すべき内容だと思っております。現時点で何か方向性があるわけではないです。
- ・市街地の中心部に空き地が少ないという中では、ご指摘にもありましたけど、臨港部については大分、立派な空地进行県でもつくっていただいておりますし、新たな駅前についても、かなり面積の広い広場をとろうと思っております。
- ・あと、詳細は今後でしょうけれども、県庁跡地にもそういった広場的な空間が生まれるものと思っておりますし、公共のできる部分については、例えば出島の前も含めて、やれるところは大分手をつけてこられたかなとも思っております。
- ・容積率のアップは、我々の狙いとしては、やっぱり民間の動きを活性化させたいと、使える部分については周辺環境が整っていれば、できる限り上げていきたいという思いもあるのですが、民間の皆様にもいろいろと取り組みをしていただく中で、新しくできたオフィスの前に、かなりゆとりをもった空間を取っていただいたりしているので、民間の皆さんとの対話の中で実現できるものは取り組んでいきたいと思ひます。

○菊森委員長

- ・港湾部分はかなり先行して進められていて、今や水辺の森公園は市民の重要な憩いの場になっているということもありますが、要は、今後、まちなか、あるいはそれ以外の地域でどのように広場とか公園を整備していくかということも含めて、ぜひ、都市計画上のご検討をいただけたらと思います。

○平松委員

- ・今、市のほうから県庁跡地の話が出ましたが、県庁跡地は組織上、県のほうは企画振興部ということで分かれた格好になりまして、以前は、この都市再生委員会でも市のほうから、もともと今話題になっているホールの話は、この委員会で最初に当時の副市長からお話があって、私もいろいろ意見を申し上げた記憶があるのですが。
- ・さらに、いろいろ伸長しつつあると理解をしておりますし、この前の県議会でも現状の報告があったと思っているのですが、この委員会に対しては今後どういうふうな扱いになっていくのか。今までは議論した経緯があったはずですから、この委員会として、県庁跡地の問題はもう別に外れてしまうのかどうか。
- ・できれば、過去に議論をした経緯もありますので、今の現状をご報告いただくといいのかなと私は思っております。

○県企画振興部・土木部（村上参事監）

- ・この会議の所管は、冒頭に植村からご説明いたしましたとおり土木部の都市政策課に移っています。県庁舎跡地につきましては、企画振興部まちづくり室が所管をしておりますが、まちづくり室から目的を特化しまして「県庁舎跡地活用室」という新しい組織が昨年度からでき上がっております。私は、土木部参事監兼企画振興部参事監県庁舎跡地活用担当ということでございます。
- ・この会議におきましては、中心市街地の一つの事業として県庁舎跡地をどうしていくのかということは、もちろご報告をさせていただきたいと思っております。
- ・先ほどの広場の話で向井政策監が少し触れられましたが、県庁舎跡地において、長崎市のほうでホールをつくるということ、それから県のほうで広場と交流・おもてなしの空間という言い方をしていますが、この3つの要素、市がホール、県が広場と交流・おもてなしの空間をつくるということを整備方針の案として取りまとめまして、先ごろの議会にお諮りをしたところでございます。
- ・方針については概ね了解ということで、この方向で進めよというご議論をいただいたところでございますので、今後、関係団体等にご説明をさせていただいた上で、今度は基本構想の策定に入っていく状況でございます。本日、資料の3-2でチャートをお出ししておりますが、この一番右の端、2024年度か2025年度ぐらいに全体の整備を終わるというようなことを考えております。
- ・ただ、それまで何もできないのかと、ずっと5年、6年の間、県庁舎跡地が何もない状態になってしまいますので、敷地の一部でも先行供用ができないかということで、例え

ば広場の機能を先にとということも検討してまいりたいと思いますので、順次、この委員会でもご紹介をさせていただきたいと思っております。

○平松委員

- ・この前、議会にどういう資料を出されたか、どういう説明をされたかわかりませんがそれをこの委員会のメンバーに開示していただくのは難しいですか。

○県企画振興部・土木部（村上参事監）

- ・委員会にお示しした資料自体は、委員会後に県庁のホームページで公開をしています。企画振興部の県庁舎跡地活用室から開いて、平成 30 年度の取り組みというところに掲載しております。
- ・11 月に、基本的な考え方ということで、その時点の県の考え方をお示しして、2 月の議会で整備方針案というものをお出ししておりますので、それもインターネットでご覧いただけます。また今後、機会がありましたら、この場でも資料をお配りして、その時点のご説明を申し上げたいと思います。

○山口(雅)委員

- ・都市再生の開発の経緯なのですが、全体的にですね。今から観光という部分を特化して長崎の場合は再生を図っていかねばいけないという中で、交通体制含め、いろいろな開発がこれから行われて、長崎駅周辺、また幸町まで、長崎自体が変わってくると思いますが、その中で、長崎の特性をもう一つ考えていかなきゃいけないのではなからうかと。どこの県・市も同じようなことをやって、競争が激化して、クルーズ船にしても福岡を含めて九州各県で努力されて、その誘致を含めてやっていらっしゃるというふうな形ですけれども、防災のことに関しては、この中には入れられないでしょうか。
- ・というのは、県庁に防災緑地というのをつくっていますし、水辺の森公園もございませよ。できたら、表立って長崎は防災強化都市というふうな、防災強化シティという形で全面的に出して、定住人口の方々も交流も含めて、長崎に住めば安心・安全なんだよと。長崎というまちは、これだけ安心のそういうふうな設備も含めた中でやっている。
- ・去年、関空の台風の事故もございまして、なかなか飛行機が飛ばないということになって、あそこで何日間というふうな形になっておりましたので、災害というのは、くるかこないか、そんなに簡単にはわからない状況ですけれども、長崎に来たら、こういうふうな面も安心なんだよと。
- ・観光の施設は、長崎はあり過ぎるほどあるのですよね。あり過ぎるものだから、今までは「長崎」というブランドで来てくれたけれども、今からは努力せにゃいかんという部分は日本各地どこも一緒ですけれども、そうじゃなくて。
- ・環境問題含めた中で、10 年先ということになったら、また環境が変わってくると思います。台風の勢力も大きくなってきていますし、どのような災害が起こるのかわからな

い状況の中で、その辺も含めた開発、再生も、長崎はこのような形で住んだら安心ですよ。このような形で行政の方もやっていらっしゃる、民間もやっていますというアピールをもっとしてもいいのではないかと。そちらのほうを特化するのも、一つのやり方かと。それなら長崎に住みたいよなど。

- ・災害が起こったところの短期間の受け入れもできるような形で、特に斜面地の住宅なんか、今から空き家対策が出てくる。中心街全て、大体もう降りてこられると。斜面地の空き家対策にも、期間限定でこっちに来ていただけますかと、そして長崎をアピールするというふうな部分も、観光とはまた別の形で今から大事になってくるのではなかろうかと。防災に関して、備蓄はいざとなった時に毛布はどのくらいある、食料はどのくらいあるというふうなところまでできるような長崎というのをつくり上げるのも、やり方としては一つの方法かなと思います、いかがでしょうか。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・ありがとうございます。安全性を売りにして人を呼び込むという発想はなかったです。よくよく考えれば、我々が企業誘致をするに当たって、長崎は地震が統計的に少ないとされている場所であることを売りにして企業誘致の材料の一つにしているところもありますので、土地の魅力というか、ポテンシャルの材料として、長崎は安全であるというのを出すのは、いいキーワードになるかなと思いました。
- ・具体の、例えば備蓄の内容であつたり計画とかというのは、それぞれ県・市で防災計画を持っていて、こういう災害に対してはこういった備えをしましょうと、食料、毛布などはここに何個備えましょうというのがあり、基本的には別に定めているものですが、そういったところをしっかりとやっているということをアピールしていくことが、長崎に来ていただく魅力の一つになるのではないかとのご指摘だと思いますので、そういう認識はあまり持っていなかったのが目からうろこでした。
- ・空き家についても取組はしているのですが、はかどっていないようなところもあって。今、長崎の空き家を改装されてシェアハウスにされたり、民泊を始められたとか、斜面地だけど空き家をうまく使っている事例も最近は大分目につくようになってきました。そういったものを加速するためにも、長崎市では空き家の調査をやって、それをホームページに載せて、皆さんに見ていただいて活用していただくというような取り組みも始めてはいるのですが、現実的には空き家を調査して所有者の方にホームページに載せていいかというお話をした時に、いやいや、ちょっと待ってくださいというようなことで、思ったほど件数が伸びていないという側面もあります。
- ・ただ、言われていたように、空き家をうまく使うことで人に来ていただいたりとか、宿泊の受け皿になったりとかと、いろいろな可能性のある部分でもあると思うので、そこは引き続き頑張って取り組みたいと思います。

○菊森委員長

- ・私のほうから質問ですけど、いわゆる防災マップというか、地域ごとに危険度、安全度

を色を変えて表した、そういったマップが一般に公開されているかと思いますが、そういったものの活用は、市民団体、あるいは市民の間では結構普及しているのでしょうか。

○市まちづくり部（向井政策監）

- ・基本的に、例えば中島川であったり浦上川であったりという河川の浸水の恐れがある地域をそれぞれ行政でマップ化して公表したりとか、あとは斜面で急傾斜のところ、ここら辺は傾斜度が大きいですねといったところを色分けしたりして、公表しています。
- ・それとは別に、今、長崎市で取り組んでいるのは、各地域で、そういうデータをベースにして、よくあるのは自治会単位ですけれども、そういったのを背景にして、大雨が降った時にはこの経路でこっちに逃げようとか、災害の種別ごとに計画を立てて、あそこには高齢の一人暮らしの方が、ここには体のご不自由な方がいらっしゃるという情報を地域で共有して、じゃあ、災害時にどういった対応をしようかというような、ある意味、地域版の防災計画みたいなものをつくっていただく取り組みを多くの自治会でやっていただいています。

○菊森委員長

- ・いずれにしても、防災の問題は外国人対応とか、あるいは高齢者対応も含めた形で、実際に起こった時に対応できる形が必要になってくると思ひまして、観光客もまたホテルの誘導とか必要になってくるでしょうから、全体に波及する課題かなというふうに思ひます。
- ・ほかに委員の皆様の方からご質問、ご意見はございますか。特にないようでしたら、議事を終わりたいと思ひます。議事としては終了させていただきまして、事務局にお返ししたいと思ひます。どうもありがとうございました。

○県都市政策課（植村課長）

- ・2時間近くにわたって活発なご議論をいただきまして、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえまして、引き続き県と市で連携しながら、長崎のよりよいまちづくりに向けた取組を進めてまいりたいと思ひます。
- ・当委員会の委員としての任期は、今年度末までとしておりますので、とりあえずは一つの区切りを迎えることとなります。これまで皆様には非常に多くの貴重なご意見、ご助言をいただきまして、事務局を代表してお礼を申し上げたいと存じます。
- ・来年度以降の会のあり方につきましては、改めてまたご連絡を差し上げたいと思ひますので、その時にはまたよろしくお願ひいたします。
- ・以上をもちまして、第17回都市再生委員会を終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。

[議事終了]